

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

発行／熊本県農業者政治連盟 JA 熊本県会館内 熊本市南千反畑町2-3 電話 096-328-1284 編集責任者 木村 幸季
発行／毎月1回 15日発行 平成9年7月4日第三種郵便物許可

8月号

No.248

主な内容

- ・ 農村環境美化・資源環境保全運動に取り組む
- ・ JAの環境保全及び食農教育活動事例
- ・ JA 本渡五和女性部活動報告
- ・ ガンバッテいます
(荒牧弘幸さん、宇都宮留美さん)
- ・ 各連合会からのお知らせ

寒川水源棚田(水俣市:写真提供 熊本県)

そうめん流しの場でも有名な寒川水源を少し下った所に、石積で築いた枚数およそ700枚、面積約30haにおよぶ「日本の棚田百選」にも選ばれた水田が広がっている。

せせらぎ

東京都内で最高齢の古谷ふささん(百十三歳)が、杉並区の住所登録地には不在で、行方不明となっている。長女(七十九歳)の話では、昭和六十三年頃に八ガキが届いたが、それ以来連絡がないという。しかし、都職員だった御主人の遺族年金に当たる「遺族扶助料」は、古谷さん口座に毎年振り込まれ、その金額は数千万円に及ぶと言った。

杉並区では、ふささんが百歳を超えてから、お祝いの品のカタログを毎年送っていた。しかし長女の「辞退します」の返信に、まったく不在を疑わなかったのである。

警視庁杉並署は、長女からの行方不明届けを受理し、情報提供を呼びかけている。

東京都足立区の最高齢、加藤宗現さん(百十一歳)の一部ミイラ化した白骨死体が、自宅ベッドで見発見された。加藤さんは三十年前に、死亡したものと見られる。口座に振り込まれていた妻の遺族年金は、家族が不正受給を繰り返していた。

百歳以上の高齢者の所在不明が各地で発生している。共同通信社の調べでは、全国で百九十二名に及ぶ。しかし、各自治体が徹底した調査を行えば、こんなものでは済まないのかも知れない。

「世界一の長寿国」日本の現状に、各国も呆れている。「でたらめな記録が相ついで明らかになり、日本の長寿大国の神話は崩れている。」(韓国メディア)

現在、百歳以上の高齢者は全国で四万人以上。関係自治体は定期的に面談するなど、所在や健康状態等を、十分に把握すべきである。これらを怠りながら、実態は不明等の言い訳は許されない。

政府も、関係閣僚会議を開催し、仙谷官房長官が、問題点を把握し、至急対策を講じるよう指示した。

高齢者が、充実した老後を過ごせる当たり前の社会を、是非とも実現しなければならない。

農村環境美化・資源環境保全運動に取り組む

農山村の過疎化や木材価格の低迷等から、荒廃する山が目立っている現況の中、県内企業の森づくり活動が活発化しています。県森林整備課の調べによると、延べ39団体、16市町村において水源涵養林の育成や、植樹あるいは下草刈りなどが行われています。

県下各JAにおいては、左表の通り地域の清掃活動や耕作放棄地の再生事業等、食農教育を含め積極的に実施されています。また、県農政連では、熊本の水や緑豊かな農村環境を守ることを目的として、昨年度「熊本みどり・食・環境基金」を設立しました。同基金では、農山漁村の地域環境を守るため、清掃等の美化活動を行った個人・団体の表彰を初め、その活動経費の一部を助成しています。また、食農教育に取り組んだ場合も、同様の措置を講じています。

活動の一例として、農村環境美化のための看板設置と、水と緑を守るための植樹活動を紹介します。

ゴミ投げ捨て防止の看板設置



▲看板を設置する JA あまくさ青壮年部

農村環境美化の一環として、本年2月にゴミ投げ捨て防止の看板を580枚作成し、各総支部へ配布しました。それぞれの総支部では、青壮年部等の協力を得て幹線道路沿いや空き地に、この看板を設置し併せて空き缶等のゴミ拾いも行っています。

このように、県内全域に設置されている看板ですが、「小さくて目立たない」「気を付けていないと見過ごしてしまう」等の意見が寄せられており、現行の2倍程度の大きさの看板作成を検討しています。

植樹活動の実施

菊池郡大津町所有で、NPO法人「天明水の会」が管理する「大津町環境の森」の一角に、「協同の森」と命名した1haの草地があります。今年の3月、この地にケヤキ、もみじ、さくらんぼ等の広葉樹の苗木300本を、各連合会・専門連・生協職員47名で「天明水の会」の協力を得て植樹しました。



▲「協同の森」下草刈り前



▲「協同の森」下草刈り後

植樹から3ヶ月経過した6月と暑い盛りの8月初旬、中央会・農政連職員有志で刈払い機と鎌を使って、2回の下草刈りを行いました。場所によっては、雑草が繁茂し樹木が覆い隠されて見えない所もあり、また、なれない作業も加わり誤って切ってしまう場面もありました。

次回は、来月下旬に各連合会・専門職員15名程度を編成し、3回目の草刈り作業を行う予定です。併せて、「協同の森」の看板を作成し、同地に設置する予定です。

JAの環境保全及び食農教育活動事例

JA名・活動名	取組み内容
JA熊本市 (環境保全活動)	<ul style="list-style-type: none"> 毎月15日をノーマイカーデーと定め、全役職員を対象に自家用車での通勤を止め、公共交通機関での通勤を奨励している。 毎年9月の第1土曜日に、JA役職員・女性部・青壮年部による熊本城、江津湖、熊本新港の清掃作業を行っている。
JAたまな (親子わくわく体験農園)	<ul style="list-style-type: none"> 5月～1月までの間、親子での農業体験と学習を計10回開いている。お米と芋の植え付けから収穫体験のほか、ミニトマト、イチゴの収穫も行っている。また、“よい食”を学ぶために、青壮年部が「マイはし作り」を指導している。
JA鹿本 (耕作放棄地の再生事業)	<ul style="list-style-type: none"> 鹿北町有志の主催により、地域の子ども約50人が参加して、耕作放棄地にジャガイモ、キャベツ、大根を植付けて、収穫までの体験学習を8月から12月までの間、3回行っている。
JA菊池 (環境保全活動)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会による水路に生息する生き物の調査や、コスモスの植栽活動を行い、生態系の保全と地域の環境形成に努めるとともに、施設周辺の草刈りや水路の泥上げ等を行っている。
JA阿蘇 (耕作放棄地解消事業)	<ul style="list-style-type: none"> 高森町にある耕作放棄地14haのうち、約2haに地元小学3年生・役場・女性部・老人会が協力し、地大豆である「ミサヲ大豆」を栽培している。
JAかみましき (イオンモールクリア農業体験プロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> クリアにて公募した、農業とかかわりが少ない子供と保護者を対象に、農業体験を通じて農業のすばらしさや食農教育・環境について、JA職員・青壮年部員が指導している。
JA熊本うき (あぐりキッズスクール)	<ul style="list-style-type: none"> 管内の小学2年生～6年生を対象とした農業・調理体験を実施している。また、近年は保護者を対象とした食農教育も推進しており、毎年100名以上が入学し、クラス毎の班編成を行い開講している。
JAやつしろ (はちべえグループ出前授業)	<ul style="list-style-type: none"> 選果場利用組合の女性部が中心となり、八代地域の農業を理解してもらうために「はちべえグループ出前授業」を展開している。八代のトマト栽培を題材に、小学校やイベント会場に出向き紙芝居を使った食農教育活動に取り組んでいる。
JAあしきた (ふれあい農園)	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の親子を対象に「親子ふれあい農園」を開設し、食と農の体験学習を通して、自然・農業・環境について理解してもらっている。 60歳を超えられた方を対象に「団塊の世代ふれあい農園」を開設し、家庭菜園として貸し出している。
JAくま (球磨ものがたり交流会)	<ul style="list-style-type: none"> 県内の水光社組合員・生産者を参集し、休耕田への田植えと稲刈り体験により、米に関する学習会を開催。球磨の米の試食宣伝も行い、消費拡大に努めている。
JAあまくさ (環境保全活動)	<ul style="list-style-type: none"> 青壮年部が中心となり、幹線道路沿のカーブミラーの清掃や投げ捨てられた空き缶やビンの回収活動と、投げ捨て防止の看板設置に取り組んでいる(写真、右の通り)。 小学生、女性部、老人クラブによる「菜の花プロジェクト」で、景観形成活動の一環として菜種の植付けを行っている。

(21年12月のアンケート調査結果より一部抜粋)

女性部活動報告

■ J A本渡五和女性部 ■

J A本渡五和女性部は14支部からなり、松本カツ工部長を中心に部員数763名で活動を展開しています。

昨年、目的別グループ活動を立ち上げ、59グループが「自分のやりたいことを、やりたい時に、やりたい人と」をモットーに楽しく活動を行っており、部員数も少しずつですが増えてきています。

活動の一部をご紹介します。

ふれあいの旅

部員同志の親睦を図るために6月22日、45名が参加してふれあいの旅を行いました。今回は、フードパル熊本でワイン工場見学とワインの試飲でほろ酔いの後、ホテル日航でのランチバイキング。テーブルいっぱいにならされた料理やデザートでおなかいっぱいになったところで、午後からは、ふれあいの旅のメインである片岡劇場【玄海一座】の観劇に行ってきました。歌や踊り、劇では終始笑いが絶えることが無く、楽しいひと時を過ごしてきました。

帰りのバスの中で、「今日は部員の親睦もでき、仕事のこと忘れ、楽しく過ごすことができたので、また明日から仕事にがんばりましょう」と松本カツ工部長の挨拶があり、帰路につきました。



ふれあい給食

本渡南支部は、平成3年から毎月1回75歳以上の一人暮らしの方や、90歳以上で家族と同居しておられる高齢者に、米や季節の野菜などを持ち寄り、弁当を作って配布しています。弁当が配られる時間になると、それを楽しみに玄関で待っておられる姿を見ると感激し、「また来月もがんばろう」と部員で話し合っています。

月1回の訪問ですが、一人暮らしの方の安否確認も兼ね、これからもふれあい給食を続けていきます。

フレッシュミズ親子みそ作り体験

フレッシュミズ部会は3月21日、親子でみそ作りを行いました。こうじに塩入りのつぶした大豆を加えてよく混ぜ、野球ボールほどに丸めるのですが、子供達も小さな手で一生懸命お母さんのお手伝いをしていました。ジッパーの袋に詰めて家に持ち帰り、2ヶ月ほど熟成させ、6月頃より食べられるようになりました。自分で作ったみそは特においしく、また作ろうと話しています。

現在、部員数は14名と少ないのですが、料理教室や子供の病気についての勉強会、お雛様ケーキ作りなど年5~6回活動を行っています。





根子岳の麓にある「鍋の平キャンプ場」の近くで、畜産業を営んでいる荒牧さん宅を訪ねました。

荒牧さんは、昭和46年3月に熊鷹高を卒業以来、40年間に亘り「美味しい・ヘルシー・阿蘇のあか牛」を飼っています。

現在、100頭の肥育牛（オスの去勢牛）と20頭の繁殖牛を、高森町内の成人式で一目惚れし結ばれた奥さんと、長男（28才独身）の3人で育っています。

また、廃校になった地元小学校舎跡を活用し、地域おこしを目的とした活動も行っています。「阿蘇フオーカスクール」と命名し、工芸を中心とした体験講座やイベント活動を行っています。この秋（10月9～11日）には、盛大に「阿蘇アート&クラフトフェア」が開催され、毎年4,000人以上の人々で賑わっています。

■牛ゼロの悲哀に遭う

宮崎県で発生した口蹄疫がほぼ終息しつつある中で、荒牧さんへの影響はとてつただったのか？

「家畜市場が一時閉鎖されたことで、素牛の

導入を計画的に出来なかったことは痛かったが、繁殖農家に比べれば被害は少なかった方でしょう。しかし、いつ何処で発生するか分からないので、畜舎等の消毒は今後も継続して行っています。」とのこと。

牛飼いとて最も辛かった事は、約30年前になりますが、別の伝染病で50頭余りの牛を殺処分した時は、大変ショックでした。丸1年間は牛が全くない状態となりました。生活を維持するために、ヒーマンとかキャベツを作ったり、蚕を飼ったりして何とか凌ぎました。と、苦しかった当時を奥さん共々振り返られました。

■1頭の純益10万円確保を目指す

大学で畜産を学び、5年前から飼育に携わっている後継者である息子さんに、今後の抱負を訊ねました。

「現在、100頭飼っていますが頭数を増やすにしても、3人の労働力では150頭が限界でしょう。それよりも、肉質が良く消費者に好まれて、高く売れる牛を育てる努力をしたい。当面は、1頭当たり10万円の純益確保を目指します。また、これからも美味しくヘルシーな、あか牛にこだわって頑張りたい。」と抱負を語っていました。

さらに、牛肉の価格は好転せず消費が落ち、む中それを打破するためには「今のデフレ状態を一日も早く脱却し、景気が回復することがなによりです。」と、政府の経済政策への苦言も。

■好きな言葉

「其の手足を低き地に働かし

心を高き天に置けよ」

（母校熊鷹の初代校長河村九淵先生の遺訓）

ガンバッテいきます



宇都宮さんは、大分の出身。結婚を機に阿蘇へ移りました。

鎌も鍬も持ったことがなかった、と言う宇都宮さん。農業は、初めての経験ばかりで楽しかったそうです。「農業に関してはまだまだ未熟。勉強することが多いです。」

現在は、両親とご主人と共に、ハウレンソウ4反、アスパラ2反、肥育黒牛の親牛12頭、子牛5頭を経営しています。

■アスパラあります

宇都宮さん宅では、8年前からアスパラを生産しています。アスパラは、親株を1.1mぐらいまで育て、その親株から出てくる新芽を収穫します。また適温になる様、ハウスの天井を空けて風通しをよくします。

■朝どり市は鮮度抜群

6年前から、直売所「朝どり市」にも出荷するようになりました。アスパラは鮮度を保つ為に、発泡ス

チロールの箱に立てた状態で販売。朝に80〜90本ずつ搬入し、午後には追加。その都度アスパラを刈り取っているので、鮮度は抜群です。多い時には午前4回、午後2回も搬入したこともあるそうです。

「収入が通帳に記載された時や、友人知人が買って『美味しいよ』と、電話してくれた時がうれしいです。」という宇都宮さん。しかし、天候に左右され、手が離せないなど、難しいこともあります。

「愛情がいっぱい入っているから、アスパラを是非食べてみてください。」

■フレッシュミズの活動

宇都宮さんは小国郷フレッシュミズ支部の代表も勤めています。部を結成して1年目。現在11名の部員で、月2回活動しています。去年はバトミントンを行いました。

部員の多くは子供がいるので、親子と一緒にできる活動を考えています。今年は布ぞり作り、バランスボール体操、料理教室を計画しています。

「フレッシュミズ活動は、忙しい日々の息抜きや交流の場。みんなと和気あいあいと、楽しくやっていきたいです。」と話されました。



▲直売所の様子

…… J A 中央会 ……

南阿蘇家畜市場が県内のトップを切って競り再開！

宮崎県の口蹄疫の影響で休止していた家畜市場で、南阿蘇畜産農協が7月11日、県内のトップを切って阿蘇郡高森町にある南阿蘇家畜市場（同畜協運営）で、午前9時30分セリ市を再開。4月下旬から約80日ぶりの市場に活気が戻りました。



▲約80日ぶりに再開した南阿蘇家畜市場

会場の入口には関係職員10人程が待機し、厳重な防疫態勢が敷かれています。

今回入場する牛は、褐毛和種276頭、黒毛和種155頭の計431頭。

開始前、同畜協の塚元秀典組合長は「通常は約7〜10ヶ月程度で出荷する子牛が、2か月半経過し大きくなりすぎた牛が中心となるので、安価になる

のを心配している。購買者もどれくらい集まるかわからない。」と厳しい表情で話していました。

結果、セリには県内外から通常の約60人の購買者が参加。取引平均価格は、県と実施した相対取引と併せ、褐毛和種3万1500円（前回比1.6%減）、黒毛和種3万4403円（前回比5.4%減）でありました。

その後、県内のセリ市は、12日には熊本県家畜市場が、16日天草家畜市場、21日 J A 阿蘇小国郷家畜市場等が相次ぎ再開しました。

J A たまな5連覇、優勝！

〜第35回 J A 熊本県親善野球大会〜

第35回 J A 熊本県親善野球大会が7月31日と8月1日、合志市の菊池恵園など二会場で開かれました

J A ・連合会13チームが参加し、熱戦が繰り広げられた結果、見事 J A たまなが優勝し5連覇を達成しました。順位は次のとおりです。

- △優勝 = J A たまな
- △準優勝 = J A かみましき
- △3位 = J A あしきた
- △4位 = J A やつしろ



▲優勝旗を受け取る J A たまなチーム

…… J A 経済連 ……

くまもと売れる米づくり推進大会（産地集荷大会）

くまもと売れる米づくり推進本部（本部長 園田俊宏中央会会長）は、7月22日、くまもと売れる米づくり推進大会を経済連7階ホールで開きました。行政関係、J A グループ熊本役員、生産者など、およそ250人が出席。主催者を代表して園田本部長が「統一ブランドマークを旗印として結集し、県産米のPRをより一層強化していきたい、米産地として消費者から信頼され、また『安全・安心なくまもとの米』を安定的に消費者にとどけることが大変重要だ」とあいさつ。産地挨拶として、上村幸男副本部長（J A 熊本経済連会長）は、「熊本のお米がおいしい」と言って頂けるよう、生産指導から流通販売まで、産地・J A グループ熊本が一丸となって取り組んでいきたい」と力強く挨拶をしました。

また、津田物産株式会社奥本光則専務が、「米の消費地情勢について」講演をしました。その後、熊本県内の小中学生を対象とした「ごはん お米と私」の作文コンクール入賞者である、熊本市立白坪小学校5年の志賀可梨さんが、「ごはんに最高にあうもの」と題して、作文を発表しました。経済連米穀農産部では、平成22年度集荷販売戦略対策として、需要にあっ

た米づくりや安定供給できる出荷契約米の確保を目指します。さらに、安全・安心な県産米拡大PR事業や、消費拡大の積極的な推進等に取り組んでいきます。最後に、各 J A の職員代表者から、それぞれ力強い集荷目標の宣言のあと、青年部代表森喜代輝氏が、大会宣言を行いました。

くまもと売れる米づくり推進本部は、熊本県産米の品質を高めるため、基本的な管理の徹底や土作りの実践など、基本技術の習得に努め、平成22年産の「150万俵」の集荷目標達成に取り組んでいきます。



▶経済連ホールで開かれた推進大会

「手軽に安全に健康づくし」

「JA共済のレインボー体操」の紹介

身体の各部の筋肉をよく動かして血液とともに酸素を細胞に運び、無理なくエネルギーを消費させる有酸素運動が健康によいということが、科学的にも明らかになってきています。

JA共済のレインボー体操は、「手を振る」「腕を伸ばす」「足ふみする」など、日常生活でのやさしい動きを組み合わせた、いつでも、どこでも、だれにでも簡単にできる体操です。心臓に負担をかけることのない、やさしい動作で全身に血液を送ることができ、日頃運動をしていない方や体力に自信のない方、高齢者の方も安全に楽しく続けることができます。

立った状態はもちろん、座ったままでもOK。どんな音楽にも合わせることができ、体力のない方は座ってゆっくりとした音楽で、運動量を増やしたい方は、速いテンポの曲でたくさん動きを入れて行うなど、ご自分に合わせた楽しい健康づくりができます。

今回は、腰痛予防と肩こりに効く体操をご紹介します。どうぞお試しください。



コラム 食と農

JAグループでは、安全・安心な国産農畜産物を提供する取り組みとともに、食のあり方や食料自給率の向上をアピールするため、「食は、日本の未来。」をテーマに「みんなのよい食プロジェクト」を展開しています。

■「JA よい食親子料理教室テキスト」を発行しました！

JA全中は、このたび『JA よい食親子料理テキスト 親子でいっしょによい食ごはん』を発行しました。これは、『家の光』8月号と一緒に同誌読者の皆様にお届けしましたので、ご存知の方も多いと思います。今回はその内容の一部をご紹介します。

親子で料理をすることが、なぜ大切なのでしょう。次の4つのことがポイントになると思います。

一つ目は、**わが家の味を子どもたちに伝えられる**から。いつものおかずは、どんな食材からどんなふうにしてできるのか。代々受け継がれてきた味を、舌と体で覚えてもらえます。

二つ目は、**会話やふれあいが自然に生まれる**から。洗う、切る、煮るなど、調理のプロセスを通して、会話がはずむ…料理は気軽なコミュニケーション手段にもなります。

三つ目は、**丈夫な体をつくる知識が身につく**から。「何をどれだけどのように食べたらよいか」を知ることは、成長期の子どもにとって、とても大切。料理をする時こそ、栄養とその働きを学ぶ絶好の機会になります。

四つ目は、**国産農畜産物を選ぶ力を育てることができる**から。調理される前のありのままの食材を手に入れば、生産者に思いが至ります。身近でとれた農畜産物は新鮮で、作り手の顔が見えるから安心できます。

「よい食」とは、家族の健康を支えるおいしく、楽しい食です。「親子で料理」は、子どもが「よい食」を学ぶ絶好の機会。ぜひ取り組んでみて下さい！

ウソ？

「よい食クイズ」

Q. 赤いお米がある。

ホント？

←正解は裏面へ

JA共済



安心を選んで組み合わせる
新しい医療保障です。

JAの
新医療共済

詳しくは、お近くのJA（農協）へ
お問い合わせください。
■ホームページアドレス
<http://www.ja-kyosai.or.jp>

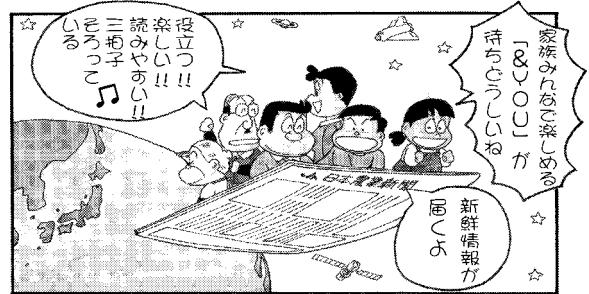
サンキューふれあいキャンペーン実施中! <http://www.3qja.jp> 10481050158

食と農 ひらく未来へ確かな目



「食と農のかけ橋」面を
創設

食のニーズ、消費者の声を正しくとらえて
産地へ価値ある情報を発信します。月曜日
から金曜日まで終面カラーで届けます。



紙面を刷新▶情報を素早く分かりやすく

役立つ情報を毎日▶農産物市況予測を充実・農業の実用記事を満載・気象見通しを強化

JAグループ

日本農業新聞

購読のお申し込みはJAへ 定価1か月2,550円

JA熊本中央会

【よい食クイズ】



答え：ホント

実は赤や黒などの色のついたお米がある。
これらは大昔に伝わったお米で、「古代米」
と呼ばれています。

白米よりビタミンやミネラルが豊富で、
健康食として注目を集めています。

出展：JA全中発行「ごはんちゃワンのお米クイズ（生活編）」より転載

農畜産物統一ブランド「KUMAMOTO」

夏だ!! 海だ!! SSだ!!

JA-SSキャンペーン

8/1(日) - 8/31(木)

ご希望の商品が選べます

賞品 総額50名様	SS賞 総額100名様	賞品 総額50名様
旅行券 30,000円分	お米 味のくまざん 1年分	バーベキューセット 豚毛刺身 1.5kg 豚肉 1.5kg

Wチャンス ハズした方の中から抽選で当たる!!

JA 熊本県特産品 3,500円程度 総額140名様

最新刊のJA-SSまでご確認ください

連絡先 熊本県農政連

電話 096-328-11284
FAX 096-326-5807

●盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（JA本・支所）へお寄せいただければ幸いです。

●全長は28cmくらいで、ヒヨドリよりわずかに大きくハトより小さい。食性は肉食性で特にクムシをよく好んで食べる。鳴かないホトトギスを、戦国の世の天下人である信長、秀吉、家康がどうするかで、それぞれの性格を後世の人が詠んだ句は、あまりにも有名である。

●うす墨を流した空やほこぎす（一茶）



●ほととぎす（杜鵑）
カッコウ目カッコウ科の鳥

あとながき